

令和7年度 大田区区民協働推進会議（第2回）

日時：令和7年6月27日（金）

場所：Minto Ota

【議題】

- 1 委員の変更について
- 2 令和7年度地域力応援基金スタートアップ助成、ステップアップ助成〔新規〕の選考について
- 3 令和7・8年度調査研究について
- 4 その他

【出席者】

委員：中島、牛山、藤本（有）、安武、濱住、浜、阿部、藤本（崇）島田、近藤、村田
事務局：地域未来創造部長、区民協働・多文化共生担当課長、区民協働・多文化共生担当係長、
区民協働・多文化共生担当3名

【会議要旨】

● **会議の開催**

日本生命保険相互会社東京バイエリア支社 久保委員 欠席

大田区青少年対策地区委員会 石垣委員 欠席

出席者が過半数に達したため大田区区民協働推進会議運営要綱第6条の規定に基づき、会議は有効に成立

● **委員の変更について**

城南信用金庫 卯月委員から藤本委員へ

第一生命保険株式会社 渡瀬委員から島田委員へ

● **令和7年度地域力応援基金スタートアップ助成、ステップアップ助成〔新規〕の選考について**

スタートアップ推薦団体の概要説明後、スタートアップ助成団体を区長へ推薦することを委員全員で承認

ステップアップ推薦団体の概要説明後、ステップアップ助成団体を区長へ推薦することを委員全員で承認

● **令和7・8年度調査研究について**

【事務局説明】

令和7年度・8年度という任期がスタートしたが、この2年間に連携・協働に関する調査研究を行い、活動報告書という形でまとめることが大きな所掌事業である。

活動報告書としてまとめた後、大田区長へ2年に1度、提言という形で手交するが、令和5・6

年度の調査研究は6月5日、中島会長、牛山副会長と共に鈴木区長へ手交した。

令和7・8年度の調査研究テーマを考える背景として、基本構想の共通課題につながるの希薄化、担い手不足と提起されており、区民活動団体も同様の課題を抱えていると思われる。

前回研究した中間支援機能を全体に掘り下げ、区民活動団体への有効な支援方法を探る。

助成金を受けた団体へヒアリングを行い、助成金終了後、活動が縮小したのか、さらに広がったのかヒアリングをすることによって、これから活動を始める団体の道しるべになるかもしれない。

団体のヒアリングからスタートして本会とは別の分科会メンバーを選定し、議論を深めたものを本会に共有してまとめていく。

[浜委員]

助成金において人件費率を低く下げられたことがあるが、無償ボランティアが時代にあっているか疑問がある。団体が継続するにあたり、人件費の考え方や助成金の中でどう考えるかのヒントをいただけたと思うのでぜひ以前の助成団体に話を聞きたいと思う。

[牛山委員]

テーマを明確にしないと分科会も何を議論したらよいのかわからなくなってしまう。

中間支援の問題は広く、全体をカバーする調査研究を2年間でやるというのは難しいと思う。

焦点を絞った方がよい成果が出てくる。

[事務局回答]

令和5・6年度の報告書は非常に充実した内容であり、中間支援施設に関する議論が深まっていた。今後は過去の調査結果も活用し、分野別、地域別などの区民活動団体の変化や新たな傾向を捉えたニーズを具体化するべきと考える。

データを集め、テーマを明確にして次回提示したい。その前段で正副会長には別途相談する。

● その他

おおた地域力発見ガイドを配布

第3回区民協働推進会議は9月頃を予定